

26日 水曜

創世記



40:1 これらのことの後、エジプト王の献酌官と料理官が、その主君、エジプト王に対して過ちを犯した。

40:2 ファラオは、この献酌官長と料理官長の二人の廷臣に対して怒り、

40:3 彼らを侍従長の家に拘留した。それは、ヨセフが監禁されているのと同じ監獄であった。

40:4 侍従長がヨセフを彼らの付き人にしたので、ヨセフは彼らの世話をした。彼らは、しばらく拘留されていた。

40:5 さて、監獄に監禁されていた、エジプト王の献酌官と料理官は、二人とも同じ夜にそれぞれ夢を見た。その夢にはそれぞれ意味があった。

40:6 朝、ヨセフが彼らのところに来て、見ると、彼らは顔色がすぐれなかった。

40:7 それで彼は、自分の主人の家に一緒に拘留されている、このファラオの廷臣たちに「なぜ、今日、お二人は顔色がさえないのですか」と尋ねた。

40:8 二人は答えた。「私たちは夢を見たが、それを解き明かす人がいない。」ヨセフは言った。「解き明かしは、神のなさることではありませんか。さあ、私に話してください。」

神様の偉大なご計画の前には、人間は小さくてまるで運命に翻弄されているようです。ヨセフの生涯も全くそのようで、彼は希望のない渦に巻き込まれて行くようですが、しかしその背後にあって導かれるのは、全能にして愛のある神様です。

ヨセフは奴隷でありながら、幸運な人とされてエジプトの高官の家にいて、しかもあらゆることに成功をし、非常に信頼されたのです。「もう希望がない」と思われるような状況にあっても、主は全能なのでそこから素晴らしいことを起こしてください方です。希望のないときは祈って待ち、主のみざわに目を凝らしてみましょう。

ヨセフが主に祝福されたのは、ただ主のご計画というだけではなく、彼が主に忠実であり、またそれゆえに主人にも忠実であったからです。どんな境遇に置かれても主を信頼して、投げやりになることなく忠実に自分の本分を全うしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

